

## 指標からみる「阪神地域ビジョン 2050」の達成状況【阪神南】

「阪神地域ビジョン 2050」（令和 4 年 3 月策定）（以下「ビジョン」という。）が描く将来像にどの程度近づいたのか（達成状況）を各種指標により測り、ビジョンの実現に向けてフォローアップを行う。

### 1 指標について

#### (1) 目的

- ・ビジョンの達成状況を測る「ものさし」
- ・地域の良さ（強み）と課題（弱み）を知る資料として活用
- ・地域住民の意識やその変化を把握する資料として活用

#### (2) 設定方法

総括項目及びビジョン実現に向けた 4 つの方向性に分けて描いた 18 のシナリオごとに設定した「将来への取組（2030 年頃の間画像を目指すための取組）」18 項目について、86 の指標を設定。

##### ① 主観指標（53 項目）

- ・「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査（兵庫県ビジョン課）の調査項目のうちビジョンの将来への取組に関係するもの
- ・「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査の阪神南県民センターの独自調査項目

##### ② 客観指標（33 項目）

- ・各種統計調査や県の調査結果等から、地域ビジョンの将来への取組に関係するもの

#### (3) 評価方法

令和 4 年度はビジョン策定の初年度に当たるため、各指標の現状値を示す。

##### ① 主観指標（53 項目）

- ・各設問に対して 5 段階評価で得られた回答のうち、「そう思う」「まあそう思う」など肯定的な回答をした人の割合を表示。

##### ② 客観指標（33 項目）

- ・各種統計調査や県の調査結果等を数値で表示。

##### ③ 全県順位（主観指標・客観指標とも）

- ・主観指標（阪神南県民センター独自調査分を除く）は、全県順位により阪神南地域の良さ（強み）と課題（弱み）などを補足的に把握。

### 2 ビジョンの達成状況（令和 4 年度）

#### (1) 指標ごとの評価

##### ① 総括的な評価

- ・「住んでいる地域への愛着や誇りを感じる」（73.7%（全県 64.7%））「全体として、今の生活に満足している」（71.1%（全県 65.4%））「住んでいる地域にこれからも住み続けたい」（82.6%（全県 77.8%））の 3 項目全てで肯定的な評価が 70%を超え、いずれも県内 1 位である。

## ②各方向性にかかる評価

### 〔方向性Ⅰ 自分らしいスタイルが実現できるまち〕

#### (主観指標)

- ・4/16項目で肯定的な回答が50%を超え評価が高い。  
「ICTによりどこにいても便利に暮らせる」「しごとと生活の両立ができて  
いる」「高齢になっても安心して暮らし続けられる地域だ」「外国の文化や  
人々と接したい」
- ・一方、5/16項目で肯定的な回答が20%未満に留まっている。  
「自分にあった職業への就職・転職がしやすい」「商売、事業を新たに始めや  
すい」「新たな知識・技能習得や専門性をみがくため学び直せる社会」「ハラ  
ズメント予防・解決の取組が進んでいる」「若者が希望を持てる社会である」
- ・全県順位では、7/16項目が県内で1位である。  
「自分にあった職業への就職・転職がしやすい」(17.8% (全県 10.4%))  
「多様な働き方を選択しやすい」(28.7% (全県 23.6%))  
「ICT(情報通信技術)などによりどこにいても便利に暮らせる」(56.1% (全  
県 48.9%))  
「年齢、性別、障害、国籍などに関わりなく暮らしやすい環境が整っている」  
(45.0% (全県 37.7%))  
「子育てと両立しやすい労働環境が整っている」(24.1% (全県 16.2%))  
「高齢になっても安心して暮らし続けられる地域だ」(56.1% (全県 47.3%))  
「外国の文化や人々と接したい」(50.5% (全県 40.3%))

#### (客観指標)

- ・「大学進学率」が県内2位である一方で、「老人クラブ加入率」が県内7位であ  
る。

### 〔方向性Ⅱ 自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち〕

#### (主観項目)

- ・3/11項目で肯定的な回答が50%を超え評価が高い。  
「地域の山、川、海など自然環境が守られている」  
「尼崎・西宮・芦屋の臨海地域の“阪神なぎさ回廊”を訪れたことがある」  
「地域に愛着や誇りを感じる」
- ・また、阪神地域特有の文化である「阪神間モダニズム」の認知度は45.2%であ  
った。
- ・全県順位では、3/11項目が県内1位である。  
「暮らしの中で芸術文化を楽しむ機会を持っている」(47.9% (全県 39.0%))  
「住んでる地域への愛着・誇りを感じる」(73.7% (全県 64.7%))  
「目的を持って学んでいるものがある」(41.1% (全県 37.1%))
- ・一方、「地域で伝統芸能・文化などが受け継がれている」(24.3% (全県 35.5%))  
は県内10位、「地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加してい  
る、または参加したい」(32.1% (全県 32.1%))は県内8位である。

#### (客観指標)

- ・「環境保全・創造に取り組むNPO等数」「社会教育を推進するNPO法人数」「NPO

法人年間認証件数」の3項目がいずれも県内2位である。

一方、「ひょうごアドプト(清掃美化活動支援制度)参加団体数」が県内8位である。

### 〔方向性Ⅲ みんながつながるやさしいまち〕

#### (主観項目)

- ・13/19項目で肯定的な回答が50%を超え評価が高い。

「住んでいる地域のことに関心がある」「知人や親戚など頼りになる人が近所にいる」「地域で安心して楽しく子育てできる」「高齢になっても安心して暮らし続けられる地域だ」「地域の公共交通は便利である」「地域の治安が良く安心して暮らせる」「製品を購入する際、環境に配慮したものを選んで」「日頃から節電・省エネに取り組んでいる」「地域の山、川、海など自然環境が守られている」「心身ともに健康であると感じる」「地域に安心できる医療の環境が整っている」「暮らしの中でスポーツや観戦を楽しんでいる」

- ・一方、「孤立しがちな人を生まないように気かけあう社会である」で肯定的な回答が9.0%(全県9.4%・県内6位)と20%未満に留まっている。
- ・全県順位では、5/19項目で県内1位である。

「高齢になっても安心して暮らし続けられる地域だ」(56.1%(全県47.3%))  
「地域の公共交通は便利である」(82.5%(全県59.4%))  
「家庭で災害に対する自主的な備えをしている」(45.5%(全県38.4%))  
「地域に安心できる医療の環境が整っている」(65.6%(全県58.3%))  
「暮らしの中でスポーツや観戦を楽しんでいる」(57.4%(全県45.6%))

- ・一方、3/19項目で県内9位である。

「地域で異なる世代の人とのつきあいがある」(41.4%(全県43.8%))  
「地元や県内の農林水産業に活気がある」(20.7%(全県25.0%))  
「地域の治安が良く安心して暮らせる」(67.0%(全県70.3%))

#### (客観指標)

- ・「まちづくり防犯グループ結成数」「訪問介護利用回数」の2項目が県内1位であるほか、「空き店舗における開業(活用)件数」「子どもの冒険ひろば開設数」「放課後児童クラブ数」「NPO法人年間認証数」「地域づくり活動情報システム」「コラボネット」登録団体数」「環境保全・創造に取り組むNPO等数」「通所介護(デイサービス)利用回数」の7項目で県内2位である。
- ・一方、「保育所入所待機者数」は県内最多であり、「自主防災組織の組織率」は県内9位、「消防団員数」は県内10位である。

### 〔方向性Ⅳ にぎわいのあるまち〕

#### (主観項目)

- ・2/15項目(「地元や県内でとれた野菜、果物、魚介類、肉などの食材を買っている」「暮らしの中でスポーツや観戦を楽しんでいる」)で肯定的な回答が50%を超え評価が高い。
- ・一方、2/15項目「地域でアート(芸術文化)に取り組みやすい環境づくりが広がっている」「地域の企業に活気がある」で肯定的な回答が20%未満に留まっている。

- ・全県順位では、3/15項目で県内1位である。
  - 「暮らしの中で芸術文化を楽しむ機会を持っている」(47.9% (全県 39.0%))
  - 「地域の駅前や商店街に活気がある」(41.8% (全県 28.2%))
  - 「暮らしの中でスポーツや観戦を楽しんでいる」(57.4% (全県 45.6%))
- ・一方、「地域で伝統芸能・文化などが受け継がれている」(24.3% (全県 35.5%))、「地元や県内でとれた野菜、果物、魚介類、肉などの食材を買っている」(54.8% (全県 61.8%))の2項目で県内10位、「地元や県内の農林水産業に活気がある」(20.7% (全県 25.0%))、「住まいの地域に自慢したい地域の宝(風景、産物、文化など)がある」(38.6% (全県 42.4%))の2項目で県内9位である。

**(客観指標)**

- ・「空き店舗における開業(活用)数」、「名目市町内総生産」など2項目で全県2位である。一方、「新規就農者数」「農産物直売所の利用者数」の2項目で県内10位である。

### 3 現状及び今後の課題

- ・阪神南地域の総合的な評価として、地域に対する愛着度や生活への満足度を示す総括項目の3指標(主観)の全てにおいて、肯定的な回答が70%を超え、全県順位も1位と高水準である。なかでも「住んでいる地域にこれからも住み続けたい」という回答は82.6%に上る。一方、「孤立しがちな人を生まないように気かけあう社会」「異なる世代の人とのつきあいがある」「地域で伝統芸能・文化などが受け継がれている」といった点で肯定的な回答が低水準に留まっており、今後の課題と言える。
- ・“多様な立場の人がつながり、対話しながら新しい価値を共に創る(コ・クリエーション)”ことにより「阪神地域ビジョン2050」で描いた姿を実現するため、自分にあつた“つながり”に参加できる、住みやすい地域をめざす取組が、引き続き必要である。